

## 発達支援としてのキャリア教育 — 図書館のできることを考える —

関西大学社会学部  
キャリアデザイン担当主事  
川崎 友嗣

### 1. 求められていること

#### (1) 大学設置基準の改正（第42条の2）

「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとすること。」

文科省「大学設置基準及び短期大学設置基準の一部を改正する省令」（2010年2月25日公布、2011年4月1日施行）

- ① 大学・学部における教育の理念・目的との関連
- ② 社会的・職業的自立に向けた支援
- ③ 教育課程の内外を通じた支援体制

#### (2) 留意事項

- ① 各大学における社会的・職業的自立に関する指導等の在り方
- ② 教育課程の編成における取り扱い
- ③ 学内における実施体制の確保
- ④ 大学の取組状況の公表
- ⑤ 産業界や各種団体をはじめとする社会との連携と協力

文科省「大学設置基準及び短期大学設置基準の一部を改正する省令の施行について」（2010年3月12日）

#### (3) 関連する設置基準の改正

- ① 人材養成目的の公表（第2条の2）
- ② 授業の方法・内容、年間授業計画、成績評価基準、卒業認定基準の明示（第25条の2）
- ③ 教育内容の改善のための組織的な研修（FD）の実施（第25条の3）

※中教審大学分科会（質保証システム部会）における議論の流れ

→ 「大学教育の質保証・向上」「機能別分化の促進」「教育研究機能の充実のための組織基盤の強化」

【参考】中教審「学士課程教育の構築に向けて（答申）」（2008年12月24日）

「キャリア教育を、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指すものとして、教育課程の中に適切に位置づける。豊かな人間形成と人生設計に資するものであり、単に卒業時点の就職を目指すものではないことに留意する。アウトソーシングに偏ることなく、教員が参画して学生のキャリア形成支援にあたる。大学が責任をもって関与するインターシップと、単なるアルバイトとは区別する（後者は単位認定の対象にならない）。」

## ワークショップ「発達支援としてのキャリア教育—図書館でできることを考える」

### 2.キャリア教育とは

#### (1) キャリアの概念

「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」

文科省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」(2004年1月28日)

#### <3つのポイント>

- ① 個人が生涯にわたって自ら形づくるもの → 発達
- ② 仕事もキャリア、子育てもキャリア、余暇や趣味もキャリア → 生き方
- ③ なぜ働くのか、働くことを通してどんなことを実現したいのか → 価値観

※働き方・生き方、仕事を通してみた人生、人生からみた職業生活

#### (2) キャリア教育の定義

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」

#### Cf.職業教育

「一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育」

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」(2011年1月31日)

#### (3) 身につける力

- ① 生きる力（確かな学力、豊かな心、健やかな体）
- ② 社会人基礎力（アクション、シンキング、チームワーク）
- ③ 就職基礎能力（コミュニケーション能力、職業人意識、基礎学力、資格取得、ビジネスマナー）
- ④ 人間力（知的能力的要素、社会・対人関係力的要素、自己制御的要素）
- ⑤ 学士力（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）

#### <社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力>

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② 基礎的・汎用的な能力  
→ 人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力
- ③ 意欲・態度及び価値観
- ④ 論理的思考力、創造力
- ⑤ 専門的な知識・技能

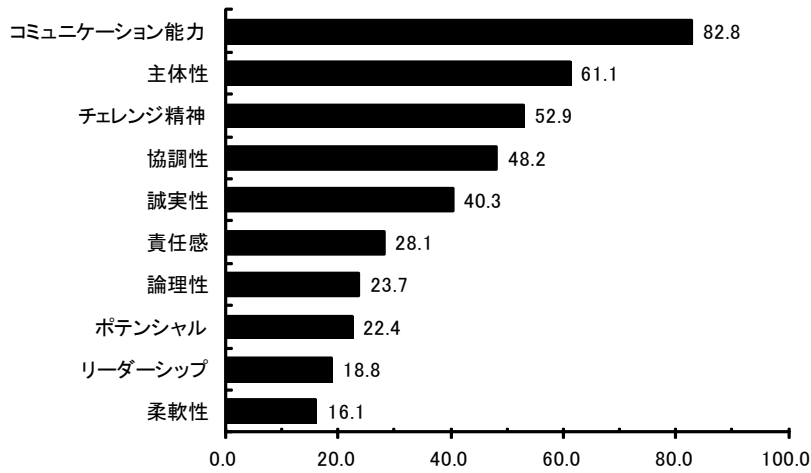
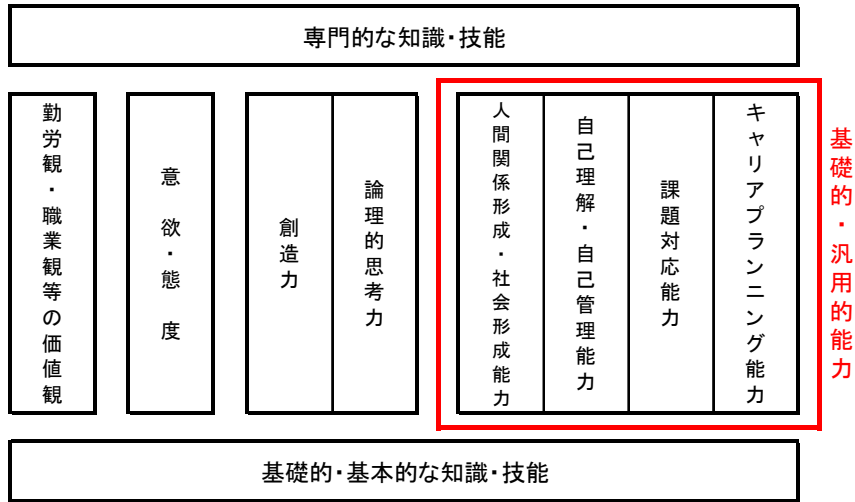
#### (4) キャリア教育の機能

- ① 学生と社会をつなぐ → 気づき、社会に必要な知識・スキル
- ② 現在と将来をつなぐ → 過去および現在と将来展望、価値観

※社会的経験に基づく自己理解・職業理解の促進&過去および現在と将来展望、価値観 → 社会的・職業的自立

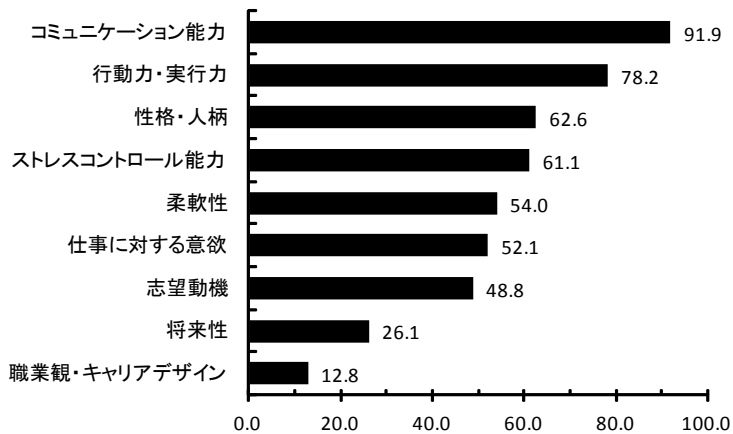
ワークショップ「発達支援としてのキャリア教育—図書館でできることを考える」

「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の構成



選考にあたって特に重視した点 (2014年4月入社)

日本経団連「新卒採用に関するアンケート調査結果」(2014年9月29日発表)



面接段階で重視する資質 (意識・性格的要素) 【文系】 (2014年4月入社)

経済同友会「企業の採用と教育に関するアンケート調査結果」(2014年12月22日発表)

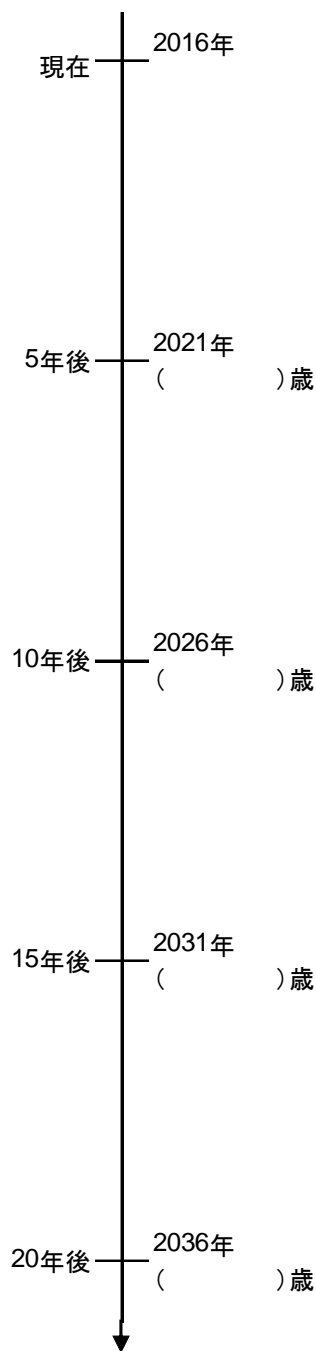
# ワークショップ「発達支援としてのキャリア教育—図書館でできることを考える」

## 【ワーク】 キャリアパスを考える

課題1 自分にとって節目となりそうな時期にどのようになっていたいかを自由に記入してください。  
左側が仕事人生（ワークキャリア）の領域、右側が個人生活（ライフキャリア）の領域です。

<仕事人生>

<個人生活>



## ワークショップ「発達支援としてのキャリア教育—図書館でできることを考える」

### 課題2 振り返り

問1 キャリアパスを書いてみて、新たに気づいたことはありますか。気づいたことや感想を自由に書いてください。

問2 また、このワークは学生への支援に、どのように生かせるでしょうか。

問3 グループワークを通して、気づいたことや感じたことを自由に書いてください。

## ワークショップ「発達支援としてのキャリア教育—図書館でできることを考える」

### 3. キャリア教育の実践

#### (1) キャリア教育の射程 (金子, 2010)

- ① マッチング主義 (適性診断や職業研究に基づくマッチング)
- ② 構え主義 (職業に対する意欲や興味を育成)
- ③ 能力主義 (職業に役立つ知識の修得 [職業知識志向])
- ④ コンピタンス志向 (コミュニケーション能力や論理的思考 [基本的能力])

金子元久「キャリア教育」『IDE現代の高等教育』2010年6月号

#### (2) 大学におけるキャリア教育

- ① 教育課程の中に位置づけられたキャリア教育 (筑波大学) ※キャリアポートフォリオ
- ② 入学から卒業までを見通したキャリア教育 (金沢工業大学) ※ポートフォリオシステム
- ③ 身につけるべき知識や能力の明確化と到達度の評価 (東京女学館大学) ※「10の底力」

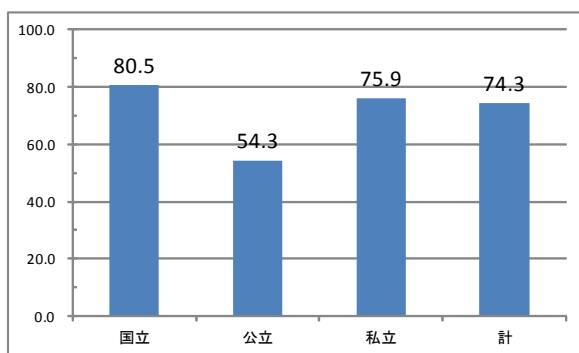
中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」(2011年1月31日)

- ① 全般型 (大正大学) ※大学本来の教育の中でキャリア教育を行う
- ② 特化型 (神奈川大学) ※系統的なキャリア形成科目を設ける

三菱UFJリサーチ&コンサルティング「厚生労働省委託「キャリア・コンサルティング研究会」報告書」(2011年3月29日)

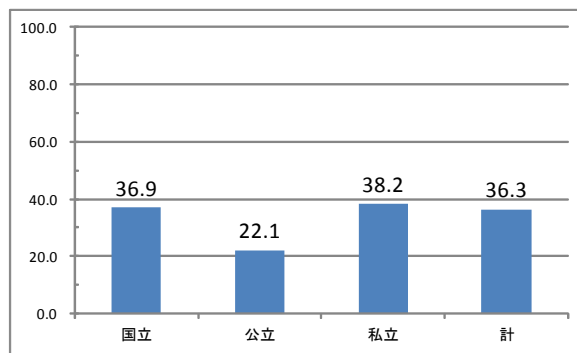
### 【参考】キャリア教育科目とインターンシップ

職業意識の形成に関する授業科目の開設状況 (2008年度)



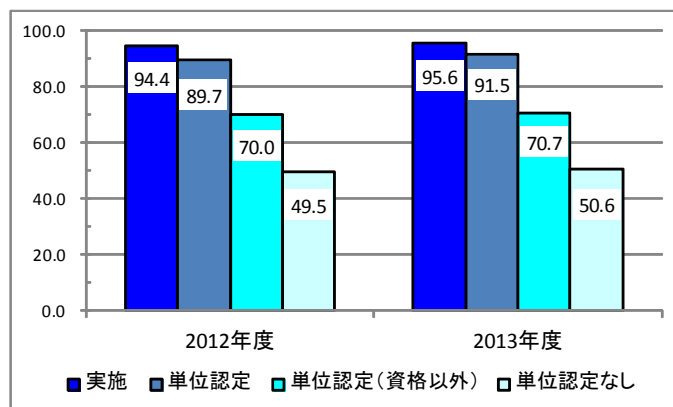
日本学生支援機構 (2009)

大学が必修科目として設定したキャリア教育科目の開設状況 (2010年度)



日本学生支援機構 (2011)

大学におけるインターンシップの実施状況 (2012・2013年度)



日本学生支援機構 (2015)

## ワークショップ「発達支援としてのキャリア教育—図書館でできることを考える」

### 4. 図書館のできることを考える【グループ討議】

- ① 個人で考える（10分）
- ② グループで討議する（40分） ※発表の準備を含む
- ③ 討議の結果を発表する（50分） ※1グループ5分×10班（人数により変更あり）

課題 社会人としての自立を促し、職業の世界への移行を支援するために、「図書館」としてどのようなことができるでしょうか？